

開催地名	広島県 竹原市
開催日時	令和6年11月10日(日)10:00~11:30
開催場所	ホテル大広苑
語り部	甲木 喜一郎(熊本県荒尾市)
参加者	100名
開催経緯	本市では高潮や津波による災害が発生する可能性があり、防災リテラシーの向上が必要である。災害発生時に行政に頼りきるのではなく「住民主体の防災」への行動変容が必要不可欠なため、被災地での活動経験を基とした知識や経験を学ぶ機会を設け、地域防災力の向上の参考としたい。
内容	<p>■はじめに</p> <p>講演者は、2016年の熊本地震において災害ボランティアとして活動し、それ以降も防災に関するさまざまな取り組みを続けてきた。これらの功績が認められ、2023年には防災功労者として内閣総理大臣表彰を受賞した。現在は、日本全体の防災リテラシー向上を目的とした活動を展開しており、防災意識の普及と具体的な行動の促進に力を注いでいる。</p> <p>今回の講演では、「防災におけるジェンダーの役割」「東日本大震災における避難行動の教訓」「高齢者と防災」「個人が果たすべき防災の役割」という四つのテーマを中心に、防災対策の重要性について考える機会を提供した。</p> <p>■防災は行政や男性の仕事なのか</p> <p>防災対策は行政や特定の専門家だけが取り組むものではなく、社会全体で考え、実践する必要がある。竹原市の防災会議における女性の割合を調査したところ、平均で10.4%と非常に低く、特に意思決定の場に女性の参加が少ないことが明らかになった。講演の参加者の多くも男性であり、防災活動におけるジェンダーの偏りが浮き彫りとなった。</p> <p>一方で、女性の比率が高い地方公共団体では、役割を分担し、女性管理者を配置するなどの工夫が見られた。防災において男女の役割を分担し、相互に協力し合うことで、災害発生時の迅速な対応と早期復興が可能となる。このことから、防災の意思決定において男女がバランスよく関与することの重要性が強調された。</p> <p>■東日本大震災の避難行動の教訓</p> <p>東日本大震災では、避難行動の違いによって大きく運命が分かれた事例があった。宮城県石巻市の大川小学校では、地震発生後に津波警報が発令され、津波の高さは6メートルと予測されていた。児童と教員は校庭に避難したが、避難場所の判断に時間を要し、堤防のある三角地帯への避難を決定した。しかし、津波到達までの48分間の間に避難が完了せず、津波が学校を直撃し、多くの児童や教員が犠牲となった。</p> <p>一方、釜石東中学校では日常的に避難訓練が実施されており、震災時には児童・生徒570人全員が無事に避難することができた。釜石市の小中学生の生存率は99.8%に達しており、これは事前に「規定にとらわれるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」と指導されていたことが大きく影響した。防災教育の重要性がこの事例からも明らかとなり、災害発生時には、マニュアルに縛られず柔軟に行動することが求められることが強調された。</p> <p>■高齢者の健康と避難の課題</p> <p>2018年の西日本豪雨では、倉敷市真備町の広範囲が浸水し、51人が犠牲となった。そのうち8割が平屋や二階建て住宅の一階部分で発見されており、高齢者の被害が特に大きかった。これは、体力の低下により迅速な避難が困難であったことや、高い場所への移動ができなかったことが要因とされる。</p> <p>このような課題に対応するためには、日常的な健康維持が重要である。適切な食事や運動を心掛け、体力を維持することが、災害時の生存率を高める要素となる。また、高齢者が孤立しないよう地域での交流を深め、助け合いのネットワークを形成することが、災害時の迅速な支援につながる。地域全体で高齢者を支え合う環境を整えることが、避難の成功率を高める鍵となる。</p>

■まとめ

防災は、自分自身や家族、地域、そして未来の世代を守るために、個人が主体的に取り組むべき課題である。行政の支援を待つだけでなく、一人ひとりが防災の知識を持ち、行動することが、命を守る最善の方法となる。

特に以下の点が重要である。

- 1.防災は男女問わず社会全体で取り組むべきであり、意思決定の場に多様な視点を取り入れる必要がある。
- 2.避難訓練を日常的に行い、柔軟な避難行動がとれるよう準備しておくことが、実際の災害時に大きな影響を与える。
- 3.高齢者の避難には、健康管理と地域の支援体制の強化が不可欠である。
- 4.防災は一人の力ではなく、地域全体の連携が不可欠であり、共助の精神を持つことが大切である。

講演の最後に、防災は特別なことではなく、日常の一部として考え、備えていくことが重要であると強調された。災害はいつ、どこで発生するかわからないからこそ、一人ひとりの意識と行動が、未来の安全につながることを改めて認識する必要がある。



開催地より

豪雨災害により大きな被害を受け6年を迎え、住民の防災意識は高まってきているとは思いますが、今回の講演を通じてより一層の防災意識を高める事が出来ました。特に高齢化への対応について今後講演会で学んだことを活かしていければと考えます。